

---

## 厨 2 病な奴らがガチバトルしたらこうなる

ばッ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

厨2病な奴らがガチバトルしたらこうなる

### 【Nコード】

N2689Y

### 【作者名】

ばッ

### 【あらすじ】

新しい転校生

風間崎 慎二

(かざまぎきしんじ)

が転校初日から早々に同級生から呼び出しをくらった!?

厨2版バトル漫画…

スタート

**(前書き)**

久しぶりにバトル物を書きました。  
まだあまりうまくないので練習させて下さい。

やあ！

始めまして！

僕は風間崎 慎二！

(かざまざき しんじ)

変な名前だつて？

そりゃあそうさ偽名だもん。

ところで突然だけど今僕は転校してきたばかりなのに学校の屋上に

同級生の平塚 悟君に

(ひらづか さとる)

連れてこられてるんだ！

なんだろ？

愛の告白かなあ ( )

転校初日にガチホモと出会うなんて…

幸先悪そうだよな。

まあ、

それはそれとしてとりあえず質問してみよつか。

なぜ僕なんかを屋上に連れてきたのか？

その真意を…

ね…

「やあ！

始めまして平塚君！

いったい何の用だい？」

「今日はただたんにお前を漬しにきたのさ

俺は今まで転校してきた

新入りのくせに偉そうにする奴を多々みてきた  
だからその前に【俺】という存在を知ってもらおう  
ここで好き勝手される前にな」

…なる程

つまり僕はこの平塚君と本気で戦い…

もとい殺し合えばいいんだね？

でもめだかボックスじゃ

あるまいし僕はいたって

普通だ。

どうやって戦えばいいんだろう（？）（？）  
わからないなー

「武器とかも使うのかい？」

「もちろんだ。

俺はこのナイフを使う」

危険物を普通に持ち歩くななんて駄目だなあ。

ロクな大人にならないよ  
きつと。

「んじゃあ早速やるっか

僕のお気に入りのアニメが始まっちゃうよ」

「ふん…

余裕でいられんのも今の内だ」

「随分とフラグが立ってる言葉を言い放つんだね

まあ、  
勝負事の勝ち負けなんて  
誰もわからない。  
神でも仏でも作者でも」

そう言った瞬間に風間崎は平塚にアッパーカットを放ちに行く。  
が、  
そんな突然の攻撃にも普通に対処する。  
あくまでも普通に  
常人にできる範囲の回避で

「そんなもんあたんねえよ」

「…おかしいな」

だが平塚の顎からは血が  
垂れていた。

その傷は紛れもなく風間崎がつけた傷  
否

偶然がつけた傷

「僕の武器がなんなのかわかんない？  
まあ…  
すぐにわかるよ」

「そんな事するかよ…  
どうした？

アニメが始まっちゃうぞ？  
来ないなら俺から行くがなっ！！」

平塚は風間崎をナイフで  
思いっきり斬りつけようとする。

しかし風間崎はかろうじてかわした後に渾身の一撃を平塚に放つ。

その第一撃は見事に決まっていた。

「ぐっ!!」

「あれ？」

当たっちゃった？」

「くそっ」

…ん？

この足元に落ちてんのは」

今まさに平塚の足元に落ちた物が風間崎の武器の正体である。

どこかの風紀委員の武器並みにわかりにくい彼が選んだ武器は…

《釘》

ひねくれ者にぴったりで  
非常に  
厄介で  
痛くて  
ダサくて  
でも怖くて

そんな武器を風間崎は指と指の間に仕込んでいた

銀色に光る指に注目する

平塚

「なる程

それでさっき顎に血がついたってわけか…」

「うん。

まあ家にあつたからね」

「にしてはわざわざ持ってくる物じゃねえな  
それに随分シヤレてんじゃないかねえか  
まるで球磨川 楔だな」

「螺子もあるよ

ほら」

風間崎が制服を脱いだ後にバラバラと中くらいの大きさのプラス螺



子が落ちてくる。

数は100本は越えていそうだ。

「100本はあるな…」

そんなにあるなら体が重くなるんじゃないか？」

「うん…」

まあほらドラゴンボールでも40キロの甲羅背負ってたじゃん」

しかし漫画の世界と現実が違う。

彼等は紛れもない普通であり一般人なのだ。

「それにここの制服って

裏ポケット多いからさ

ついつい入れちゃうんだ」

「…ふざけてやがるな」

会話をしてる頃には既に

平塚の体力は回復していた

信じられない回復力だ

「さあて…」

そろそろこっちも行かせてもらうぜ

見たいドラマが始まっちゃうんでな！」

その瞬間に平塚はナイフを投げる。

これをくれば確実に病院行きだが

…風間崎はかわせなかった

いや、  
”かわさなかった”

「ん…

あーごめん

アニメの時間だから負けさせてもらっよ  
「

「なっ！

てめえふざけんじゃねえ！

1回は勝負を了承したじゃねえか！  
今更逃げんのか！？」

ここで球磨川 楔なら

『僕は悪くない』

とか言うのだからうが彼…

風間崎は違った。

『うん！

ごめんね！

『下校時間すぎちゃったもん！』

「……………」

数秒の沈黙が流れる。

その沈黙を打ち破った勇者は平塚だ

「てめえ…」

明日は決着つけるからな？」

「下校時間を過ぎました  
まだ学校にいる生徒はただちに帰宅して下さい」

そんなアナウンスだけが  
学校内と運動場に響いた

ちなみにドラマとアニメを見たがっていた少年2人は結局放送時間  
が過ぎていて見れなかったという

(後書き)

読んでくれてありがとうございます！  
続きは書くかどうかわかりません。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2689y/>

---

厨2 病な奴らがガチバトルしたらこうなる

2011年11月6日04時18分発行